

Vol.177

院長 関の

Face to Face

2023年3月1日発行



寝違えたんだと思います。ぎっくり腰だと思えます。：と患者さんが自ら判断して治療に来られるケースが多くあります。ほとんどの場合、早ければ二日から三日、遅くとも二週間で回復するので大きな問題にはなりません。稀に「動脈解離」という恐ろしい病気が潜んでいることがあります。動脈解離とは血管壁が裂ける病気で寝違えやぎっくり腰とは

寝違い?ぎっくり腰?動脈解離?



かけ離れたとんでもない症状が出ると思いがちです。ところが、医師でも選別が難しく、精密検査をしないと診断できない場合があるのです。微細な解離が始まった時、例えば内壁がほんの少し裂けた時、血液がじわじわと染み出している状態で破裂寸前だが血管が膨らんで周囲の神経を圧迫している時などです。この判

別を我々治療家は注意して聞き取ります。ポイントとしては、中年以降の方の夜間痛です。痛みで眼が覚める、痛みで眠れないのはかなり注意です。頸の痛みなどで「何かがつまった感じがする」「頭痛を伴う」、腰の痛みで「経験したことのないような痛み」「動くことができない痛み」は危険信号です。急な運動、無理な姿勢、疲労が続いた：など思い当たる原因がないのにこういった不自然な痛みが発生したらまずは総合病院を受診してください。



関 修一(せきしゅういち)

健育会 東銀座整骨院・整体院・

鍼灸院・マッサージ院 院長

代替医療の総合治療院としての

確立を目指す。タイトルの「Face

to Face」は「患者さん自身と向き

合って患者さんの症状と闘う」こ

とを願ってつけた

※毎月一日の発行です